

研修だより

矢島小学校

11

04.11.5

IT活用の教育効果

文部科学省は「ITで築く確かな学力 ～その実現と定着のための視点と方策～」(2002.8)において、IT活用は「基礎・基本の確実な習得」に関して、次のような教育効果があるとしています。

わかりにくい抽象的な概念や思考過程を視覚的に示すことで子どもたちのつまずきを克服する。
一人ひとりの理解度に応じたきめ細かなプログラムにより基礎・基本の確実な定着を実現する。
データ収集・分析の効率化や、他との情報共有に大きな力を発揮し、結果に基づいて子どもに考察する授業を実現する。

また、思考力、判断力、表現力の育成についても、次のような教育効果があるとしています。

相手や目的に応じた多様な表現手段は、論理的な思考力や実践的な表現力を高めることにつながる。
学級や学校の枠を越えた共有・交流を通じて他と学びあいながら、多様なものの考え方を知り自らの考察を深める。

このことから、ITは発展学習を行う上で有効なツールであり、子ども一人ひとりの個性や能力に応じた教育の一層の充実が可能になる、指摘しています。(本校研究副題「個に応じた指導」と、大いに関連していますね。)

またITを効果的に活用するためには、「教員」「ハード」「ソフト」の整備や活用がバランスよく推進されなければならない、としています。

教員

教員は、ITは学力向上のためのツールと認識し、実践的なIT活用の指導力を高めることが重要である。そのためには、各教科の指導に対応した実践的な教員研修の充実が必要であり、日常的にITを活用できる環境作りが重要。

ハード

持ち運びの容易なノート型コンピュータなどを普通教室などでも活用できるように整備することによって、教員が職員室で利用したり、学習目的に応じた必要台数を柔軟に揃えたりできる。

ソフト

教科指導用の良質なコンテンツを充実することが求められる。